



Safeguarding the
Future of Linux
Through Standards

フリー・スタンダード・グループ Free Standards Group

革新的で、低価格、フレキシブルが特徴である Linux を、アプリケーションやユーザーにとって、真に現実的なソリューションにまで高めることができるのは、オープンで統一された標準だけです。

November, 2004



Safeguarding the
Future of Linux
Through Standards

オープン・ソースとオープン・スタンダード

オープン・スタンダードとオープン・ソースは異なるものですが、非常に親和性が高く、互いにその価値を高めます。

オープン・スタンダードは、誰もが参加できる公開仕様の策定をもって、誰にも、インターオペラビリティ、ポータビリティ、そして公正な自由競争を約束する最良の方法です。

オープン・ソースは、誰もが参加できる公開開発手順によってソースコードへの自由なアクセスを約束するものです。



Safeguarding the
Future of Linux
Through Standards

オープン・スタンダードがもたらすもの

- 国際的な、誰もが参加できる公正な公開手順で策定されるオープン・スタンダードは、低価格で信頼できるソリューションをエンド・ユーザーに提供できる方法論です。
 - 選択肢が得られます(値段・機能・質・サービスなどの条件から選べる)
 - 仕様統一によるユーザー層の拡大で、ベンダーの投資効果が高まります。
 - 真に求められているユーザーのニーズを正確にとらえ、的確にプロダクトに反映させやすくなります。



Safeguarding the
Future of Linux
Through Standards

オープン・ソースとオープン・スタンダード 両方が必要

- 現在、オープン・スタンダードのオープン・ソース実装はあまり多くありません。
- また、オープン・ソースのシステムは、オープン・スタンダードに合致していないこともままあります。
- 両者が協調してはじめて、真に安定したソリューションを生み出すことが可能になります。
- オープン・ソース + オープン・スタンダード = オープン・ソリューション

現実には、*Linux* のオープン・スタンダードが無いという印象が、マーケットが *Linux* に移行するのを阻害する要因になっています。



Safeguarding the
Future of Linux
Through Standards

FSG のメンバー

- Corporate Members
 - Platinum Members
 - HP, IBM, INTEL
 - Gold Members
 - Conectiva, MandrakeSoft, Miracle Linux, MontaVista, Red Hat, Sun, SUSE, Turbolinux, VA Software
 - Silver Members
 - AMD, Debian, Dell, NetSweng, Progeny, Sun Wah Linux, ThizLinux
- Nonprofit Members
 - The China Electronics Standardization Institute, Gelato Federation, **Japan Linux Association**, Linux International, Linux Professional Institute (LPI), OSDL, The Open Group, PC Open Architecture Developers' Group (**OADG**), Software in the Public Interest (SPI), Software Liberty Association of Taiwan (SLAT), USENIX Association, University of Wisconsin, **CICC**
- Personal Members



Safeguarding the
Future of Linux
Through Standards

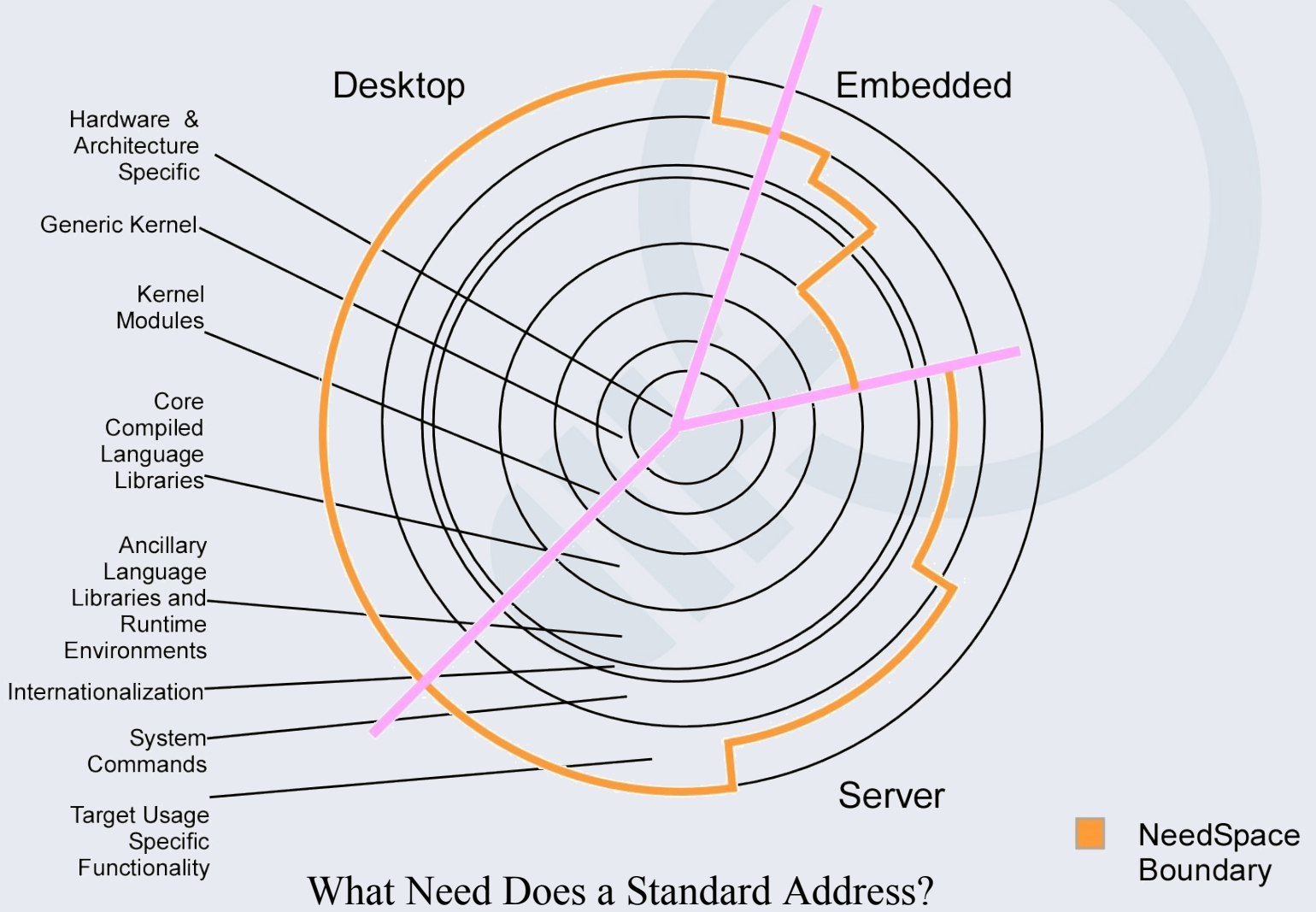
FSG の組織

- Board of Directors
 - 最終的な意志決定を行う
 - 2年任期で半数改選
- Executive Director
 - Jim Zemlin
 - FSG の運営に責任を持つ
- Working Group
 - LSB (Linux の共通のコア)
 - OpenI18N (国際化)
 - OpenPrinting (印刷環境)
 - LANANA (名前、数値の登録簿)
 - Accessibility (アクセシビリティ)
 - DWARF (デバック用ファイルフォーマット)
 - OpenCluster (クラスタ用API)

それぞれのスタンダードの関係図



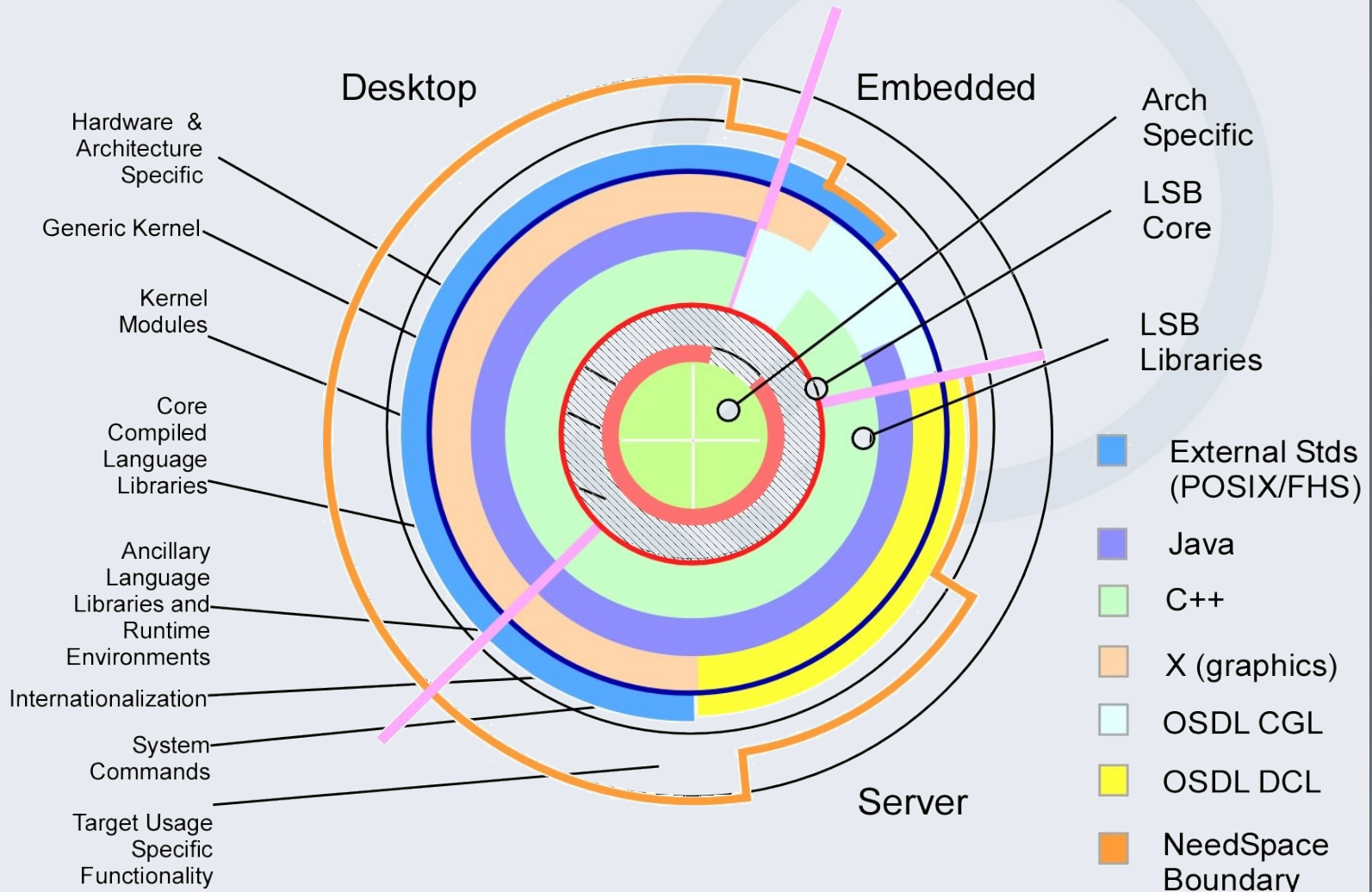
Safeguarding the Future of Linux Through Standards





Safeguarding the Future of Linux Through Standards

それぞれの標準の関係図



現存する標準が定義している部分

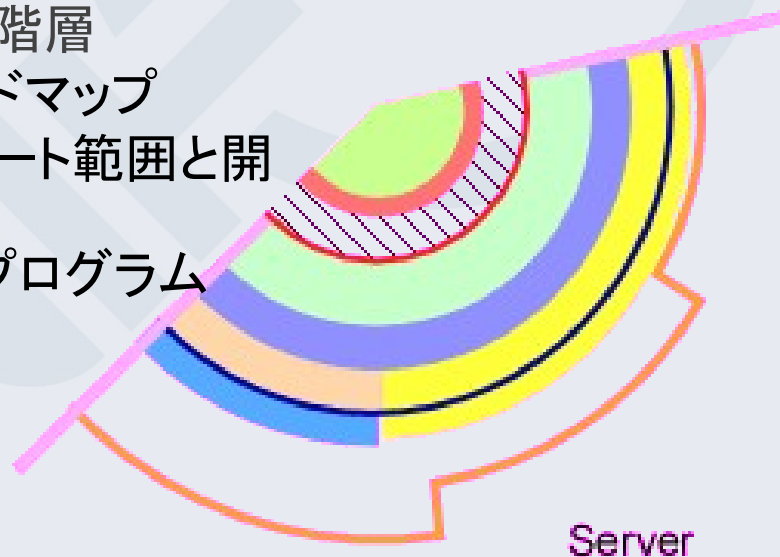


Safeguarding the
Future of Linux
Through Standards

当面の**LSB** 開発の注力分野

90%をカバーが目標

- バージョンのアップデート
- 不足分の追加
 - 実行環境
 - 中核ライブラリ
 - ファイル・システム階層
- 的確なプロセスとロードマップ
- テスト・スイートのサポート範囲と開発方法論の定義
- 適合性の定義と認定プログラム

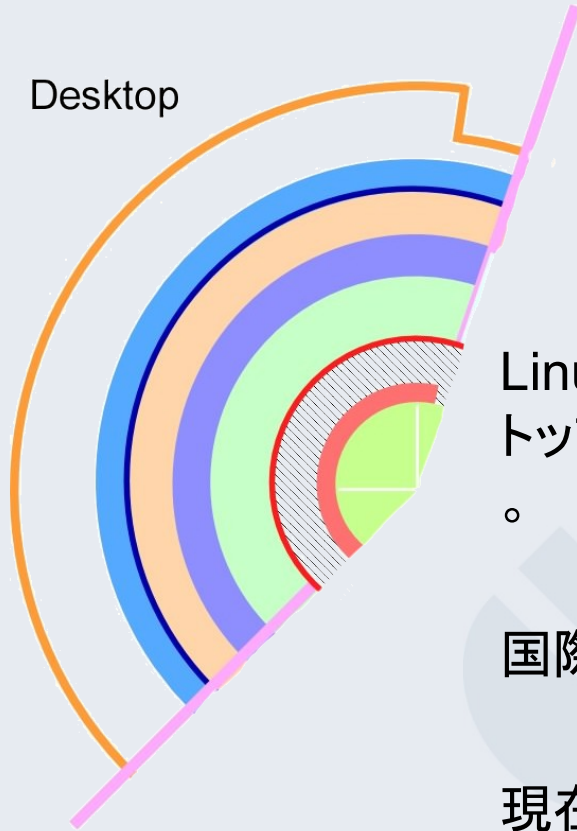


国際化ワーキング・グループ **Open18N** および、印刷ワーキング・グループ **OpenPrint** の注力 デスクトップ



Safeguarding the
Future of Linux
Through Standards

Desktop



Linux 仕様を日本や国際社会で、デスク
トップとして使用可能なレベルまで高める
。

国際化仕様・印刷仕様のアップデート

現在実装が不足している、より多くの国
際化機能を実装し、それを誰もが自由に
使えるようにする。



Safeguarding the
Future of Linux
Through Standards

最近の成果

- ISO の PAS (Publicly Available Specification) の提案者に認定される。これにより、FSG の標準が短期間に ISO 標準として認定される可能性が高くなった。
- LSB 2.01を各種のCPUアーキテクチャ依存部分の標準と共にISO に提出
- ISOで6ヶ月の電子投票に入った。
- 2005年に ISO 規格として認定される予定。
○